

教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院総合理工学研究科理学専攻
教育プログラム・コース名	遺伝カウンセラー養成課程コース
対象職種・分野	総合理工学研究科博士前期課程大学院生
修業年限(期間)	2年
養成すべき人材像	がん患者およびその家族を対象にがん予防の推進を行う人材養成を行う。具体的には以下の項目を重点的に指導、養成する。 (1) 分子遺伝学を含む遺伝学およびがんゲノム学の専門的知識に基づいた適切な情報提供ができる。 (2) 臨床背景や家族歴からがんの超ハイスリスクグループの遺伝性腫瘍例を拾い上げ、がん予防につなげることができる。 (3) ゲノム情報から家族性腫瘍の可能性を予測し、がん予防につながる適切な遺伝医療へのサポートができる。またゲノム医療のエキスパートパネルにおける、遺伝子バリエーションの適切な評価、医療者や患者への正確な情報開示ができる。 (4) 遺伝学的アセスメントを含む遺伝カウンセリングの提供を行う、あるいは適切な診療部門での診療を可能にする支援ができる。 (5) 臨床およびゲノム情報から適切な治療選択、さらにはコンパニオン診断に関してわかりやすく説明ができる。 (6) 患者・家族自身の自己決定の支援ができる。 (7) 疾患ごとに適切なサーベイランスを行い、がん予防検診を含めたがん予防策の提示ができる。 (8) 適切な遺伝カウンセリングを行うことで、身体的・精神的・社会的ケアやがん再発予防等ができる。
修了要件・履修方法	<修了要件> ・生物・環境化学特別研究(12単位)を含む17の必修科目(認定遺伝カウンセラー制度が定める)のすべて(44単位)、さらに専修科目の1科目(2単位)の課程を履修し、それぞれの試験に合格すること。 <履修方法> ・講義、演習、実習および特別研究の履修を行うこと。 ・生物・環境化学特別研究を行い、研究論文を提出し、最終試験の審査を受けること。
履修科目等	<必修科目> 遺伝医療特論 講義(2単位)、分子遺伝学特論 講義(2単位)、人類遺伝学特論 講義(2単位)、人類遺伝学演習 演習(2単位)、遺伝医療と倫理 講義(1単位)、臨床遺伝学Ⅰ 講義(1単位)、臨床遺伝学Ⅱ 演習(1単位)、遺伝サービス情報学 演習(1単位)、カウンセリング特論 講義(2単位)、腫瘍学Ⅰ 基盤講義(医療現場・学際領域)(2単位)、腫瘍学Ⅱ 横断講義(予防・研究開発)(2単位)、遺伝カウンセリングⅠ 講義(1単位)、遺伝カウンセリングⅡ 演習(2単位)、医療特論 講義(1単位)、遺伝カウンセリング演習 演習(4単位)、遺伝カウンセリング実習 演習(6単位)、生物・環境化学特別研究 演習(12単位) <専修科目(1科目を選択)> タンパク質科学特論 講義(2単位)、病理学特論 講義(2単位)、地球化学特論 講義(2単位)、分子神経生物学特論 講義(2単位)、環境微生物学特論 講義(2単位)、行動内分泌学特論 講義(2単位)、免疫分子機能特論 講義(2単位)、ゲノム情報神経学特論 講義(2単位)、計算生命科学特論 講義(2単位)、発生物学特論 講義(2単位)、環境生理学特論 講義(2単位)、生物データ科学特論 講義(2単位)、分子機能解析特論 講義(2単位)

がんに関する専門資格との連携	認定遺伝カウンセラー養成の認定施設(人類遺伝学会、遺伝カウンセリング学会認定)						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	・講義として「人類遺伝学」を基に、医療の全診療科に関わる疾患を病因、病態、診断、治療、遺伝学的検査、遺伝カウンセリング、心理サポート、社会資源の活用について学び、遺伝カウンセラーの基盤を形成する。 ・腫瘍に関しては腫瘍学Ⅰ 基盤講義(医療現場・学際領域)、腫瘍学Ⅱ 横断講義(予防・研究開発)を基に、がんの遺伝学総論と、遺伝性乳がん・卵巣がん症候群(HBOC)、リンチ症候群(遺伝性大腸がん)、家族性腺腫性ポリポーシスなど家族性腫瘍症候群や薬理遺伝学について学ぶ。 ・アクティブ・ラーニングを重視し、クライアントと医療者の立場を体験するロールプレイを実施することで、遺伝カウンセリングの重要性を理解する。 ・今回の申請では、がんハイリスク者に目を向け遺伝カウンセリング手技を身につける。がん発症者のみならず、がん発症の可能性のある血縁者、ハイリスク者の発症前からの遺伝カウンセリングをとおした教育、健診によるがん予防のできる人材を育成する。						
指導体制	近畿大学遺伝カウンセラー養成課程では、これまで全国の約20%の認定遺伝カウンセラーを輩出した。これまでのがんプロフェッショナル養成プランにて教育された、多様な専門領域を有する認定遺伝カウンセラーのOB、OGが全国から集まって、当大学院生それぞれのニーズに合わせた教育が可能である。上記の特色を以下の体制で指導する。 〈職位〉 学内専任教員14名(教授5名、准教授4名、講師4名)、医学部兼任1名客員教授2名、非常勤講師19名〈医療資格〉 医師16名、薬剤師3名〈遺伝専門資格〉 臨床遺伝専門医9名、認定遺伝カウンセラー8名						
修了者の進路 キャリアパス	・課程修了に伴い認定遺伝カウンセラー制度委員会が行う認定遺伝カウンセラー認定試験の受験資格を得る。 ・認定試験の合格により認定遺伝カウンセラー資格を取得する。(更新制度あり) ・医療施設の遺伝子診療部等で遺伝医療の専門職である認定遺伝カウンセラーとして遺伝カウンセリング業務に従事し、遺伝カウンセラー教員としてのキャリアを積む。 ・がん領域ではがん専門医療施設あるいはがん診療連携拠点病院等でのがんの遺伝カウンセリングに従事する。 ・各関連学会の参加、近畿大学のインテンシブコースなどで研修を積む。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2	2	2	2	2	10
受入(養成)目標人数 設定の考え方・根拠	府内の19つのがん拠点病院に遺伝カウンセラーを最低2人ずつ配置することを目標にする。既に充足している病院もあるため、府内の遺伝カウンセラーを今後5年間で10人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度2人以上の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を10人と設定。						